（この前書きと課題文を【11】の後に挿入してください）

Ⅳ、なぜ医学・医療を志望するのか

（医師志望理由、志望進路を固めていくための課題）

あなたはなぜ医学部医学科へ進学しようと考えているのですか。もちろん医学を勉強し、研究したいからでしょう。ではなぜ医学を勉強したいのですか、なぜ研究したいのですか。

大学は基本的に研究の場ですから、課題を決めて研究したいというのは分かりますが、それがなぜ「医学」なのでしょう。なぜ生命科学ではないのでしょう。なぜ生命工学ではないのでしょうか。

臨床医を目指しているので「医学・医療」を学び国家試験に受かって医師になりたい、というのは分かります。ではなぜ臨床医を目指すのですか。この社会にはたくさんの職業があります。その中から、よりによって、様々な事故のリスクが高く、訴訟件数も多く、長時間の重労働で、下積みの長い医療職をなぜ選ぼうとするのですか。

ここまでで、医療の現状や医療者に求められることについていろいろと考えてきたと思います。自分の進路について、知識も情報も十分に得たと思います。それをもとに考えてみると、医療職はこの社会の中にある職業のなかでもかなり責任が重くて、心身共にかかる負荷も重い職種だということが分かったでしょう。それでもなお志望するのはなぜですか。

また医学研究や医療職と言っても、進む方向も多岐に分かれていることもわかったでしょう。あなたはどんな研究がしたいのか、どんな現場で働きたいのか、医学を学ぶ前なのでまだ変わる可能性はあるにしても、今はどんな人生を思い描いているのか、自分に問いかけてみてください。それがあなたの志望理由になるはずです。

ある程度志望理由は当然持って受験準備を進めてきたと思いますが、もう少し具体的に、そして覚悟をもって固めきってください。

前期の最後は、そのための演習問題に取り組んでもらいます。

【12ー】　医師を目指すということ（医師志望理由・医師患者関係・医療倫理）

（設問）次の文はある脳外科医が医師の倫理について述べたものです。これをよく読んで以下の問いに答えなさい。

問 1　文中に医学部の学生が医学部を選んだ理由を調査した結果が述べられているが、あなたはこの結果についてどのように考えますか。（200 字以内）

問２　著者はどのような医師を不適格と考えていますか。また、あなたは医師として最も重要な資質は何だと考えますか。（200 字以内）

問3　医師の倫理についてあなたの考えを述べなさい。（400 字以内）

山口大学医学部 92 年度問題

ある調査によれば、医学部に入学した学生が医学部を選んだ理由の第一は「生活が保障されているから」であり、第二は「社会的地位の高い職業であるから」という理由でした。「生命の神秘が知りたいから」とか「親が医師であるから」などがそれにつぎ、人類愛から医師を志した人も皆無ではありませんが少数でした。

医師が倫理で選ばれたものでないにしても、選んだ職が医業なら、当然社会は医師に期待する倫理があるはずです。社会は医師を必要としており、そのために社会は医師の生活や業務を理解し、その生活を保障する必要がありますが、医師はまた社会の期待に答えなければなりません。そのために医師に求められることは、生命に対する謙虚、真摯、畏敬の念と、人間に対する道徳的に誠実な心だと（沢瀉『医の倫理』）、医学倫理の本には当然のことのように書かれていますが､それはあくまで医学倫理を業とする学者の考えです。

ここで問題になるのが、医師の学者としての合理性と臨床医としての人間性です。医業とは、同じ人間である感情をもった個性ある患者に接して、その生死にかかわる問題を扱わなければならない職業です。相当の専門知識と技術はもちろんのこと、かなりの面で合理的思考をもち、合理的にものごとを処理する能力を必要とするほかに、最低、相手の気持を察し、患者一人一人の要望に合った対応ができなければなりません。しかも、そうした患者への感情移入（共感）は合理的に決められるべき治療方針に影響してはならないのです。しかし実際には、高い技術、広い知識を持ちながら人間理解の点では不十分な医師もいれば、患者への余りの感情移入のために、注文を受ける職人のように、患者によって治療を変え、医療の統一性を欠く医師もいます。

病院にはいつも当直医がいます。夜の患者の変化は当直医に報告され、当直医は自分の判断で当座の処置を行いますが、重大な変化と思えば上司や主治医に連絡して処置と対応を相談します。当直医を信頼して大抵の変化なら任せる医師もいれば、ちょっとした変化でもじっとしていられず、またほかの医師の出す指示は気に入らずに、自分で処置を決めるためにいちいち病院に来る医師もあります。それが徹底してくると、受け持ち患者を常に見守り、いつなんどきの変化にも十分対応するために片時も患者の傍からはなれられな

くなるはずです。そう一人の患者にかかずらっていては多くの患者の治療はできません。しかしそのような医師は、またどんな軽い症状の病人でも、心配して頼ってくる患者がいれば、いつどこでも診察して安心させたくなるものです。病気の説明でもそうです。理解できない患者や家族のために、医学の教育をするように何時間もかけて病気の実態治療の説明を行います。そして手術の前後となれば当然病院に泊り込んでの観察となります。また癌などの病名告知に代表される、患者に必要上つかなければならない嘘についてもその時々に悩むでしょう。いわんや日常の医療でおこりうる、ほんの些細な過ちをくよくよしていては何の注射をうつべきかも決められなくなってしまいます。

ほとんどの医師は、ほとんどの世間の人間と同じく、平均的な人格の持ち主です。病気をよく診断し、よく治療し、うまく治れば患者からは感謝され、自分でも満足します。ですからある程度医師としての経験を積めば、その仕事は生きがいになるのです。そしてそのうちに患者に対する献身度、新しい医学知識の修得、治療のやり方など、一人一人に自分に可能で納得できるそれぞれの範囲と程度が自然に決まり、それがその医師の働く職場の選び方ともなり、実力となり、評判となって、その立場と評判からそれなりの患者が集まるのです。

こうした平均的医師の倫理性はどうして決められていくのでしょうか。医師としての義務が医師として妥当な医学知識と技術をもつことにあるように、医師としての倫理性も、平均的人間性（道徳律と社会的拘束のバランス）に頼っているのです。人間であるかぎり、人に悪く言われるより、感謝されたほうが気分がよいはずです。それ以上に悩み苦しむ人を目の前にすれば、それを救ってあげたいと思う心は人間なら誰でもあるでしょうし、同僚の医師よりいくらかでも優れた知識、優れた技量をもち、よりよい成績をあげたいという競争心もあるでしょう。これこれが医師として自分がすべきこと、これこれがすべきでないこと、一人一人の医師の胸の中には一般の社会人と同じく、自分で考えた行動の基準があり、その範囲で行動するのです。開業医がどの程度もうけるためにことをかまえるか、そうした配慮の範囲もそうした中で決められることの一つです。

しかし医療について、医師と患者は対等ではありません。ほとんど一方的に医師が万能なのです。けれども基本的人権の立場からは医師と患者は平等のはずです。この立場の食い違うぶんだけ、医師には倫理的義務が、そして患者には権利が主張されるべきなのです。

「医師にして哲学者たることは神に近し」とヒポクラテスは述べています。医師の古典的規範として有名なヒポクラテスの誓いには、いかなる患者に対しても医療は患者の福祉のために行い、不正や加害を目的とせず、治療するときに見聞きしたことは他言せず純潔に敬虔に生涯を送る、という内容が記されています。志をもち、選ばれた人たちが伝統を守りながら徒弟制度のなかで医学の個人教育を受け、医師として尊敬を受けながら病人を助けた当時の事情をうかがわせますが、人格で選ばれず知識で選ばれ、大量に作り出される現代の医師に対しては個々の職業的自覚をもつ以外規制はないのです。

（水谷　弘「脳死論」草思社より抜粋）

【12ー】　医療者を目指すということ・解答例

＊古典的良問です。問の三つはそれぞれ医学部志望者にとって必ず考えておくべき課題です。問１は医学部志望理由。学生に対する調査は医学部志望理由なのに回答はどれも「医療職志望理由」になっているところが、医学部の特徴を表しています。

問２はこれまでも考えてきた医師の資質と適性、問３が医師に求められる倫理です。これまでの前期の論文への取り組みによって、皆さんがこれから歩まなければならない道とその現状・課題が分かってきたはずです。そのまとめとして、医学部志望理由の自己チェックに入るという位置づけで取り組むとよいでしょう。

問１への取り組み

設問の要求

文中に医学部の学生が医学部を選んだ理由を調査した結果が述べられているが、あなたはこの結果についてどのように考えますか。

↓

第一は「生活が保障されているから」
第二は「社会的地位の高い職業であるから」
「生命の神秘が知りたいから」
「親が医師であるから」などがそれにつぎ、
人類愛から医師を志した人は少数

この問題では「医療観・職業観」が問われている

論の中に必ず自分を据える（自分を棚に上げて他人を批判は出来ない）

「職業としての医師」　医療職の職業としての魅力は？

生活の保障⇒長い下積み、密度の高い長時間労働、高いリスク
社会的地位⇒医師は「社会的地位の高い職業」か？　⇒「職業に貴賤なし」
生命の神秘⇒医療の目的は人の苦しみに対する援助
親が医師⇒だから何？
人類愛⇒面接でそう答えられるだろうか？　医療はもっと地道な仕事。

あなたが選ぶ理由は？

（問１解答例）

職業に直結する学部選択であれば、「生活保障」は当然だが、それだけなら医学部に限ることはない。「社会的地位」については、職業に社会的地位などありえない。「生命の神秘」は医学の目的ではない。「親が医師」だとなぜ自分が医師になるのか、その理由が必要だ。また「人類愛」ゆえに、というほど自分は偉くない。医療職の魅力は人の苦しみ直接向き合えることだ。だからこそ人の役に立つ、という実感も持てると私は考えている。

問２への取り組み

設問の要求１

著者はどのような医師を不適格と考えていますか。また、あなたは医師として最も重要な資質は何だと考えますか。

この設問には、問いが２つ含まれています。

「著者はどのような医師を不適格と考えていますか。」

この設問前半の要求は（課題文の要約、主旨の説明）を求めるものです。したがって、課題文から「不適格な医師」について定義されている内容を抜き出せばよいのです。第３段落に定義されて、第４段落で具体的な説明が加えられています。解答は定義のほうから抜き出して、次のようにまとめます。

（要求１に対する解答例）

高い技術、広い知識をもっていても人間理解の点で不十分な医師。また、患者への感情移入が強すぎて、医療の統一性に欠ける医師。この両者を不適格としている。

設問の要求２

「あなたは医師として最も重要な資質は何だと考えますか」

この設問後半の要求は（課題文の中に含まれる特定の内容についての考察・意見）を求めるものです。

「あなたは～何だと考えますか」という問いであっても、勝手に自分の思いつきを書けばよいというわけではありません。課題文に医師としての経験を積んだ著者が、その事柄についてヒントを与えてくれているので、これに対する自分の意見を述べる必要があります。

（要求２に対する解答例１）

私は著者の言うとおり人間的共感能力と合理性の両方が大切だと考えるが、それを併せ持つような資質の人などいないだろう。結局どちらかに傾いた資質を持つはずだから、自己の傾向を見つめ、その是正に努力できる、どちらかといえば合理的資質が大切だと考える。

（要求２に対する解答例１）

著者が言うように、医師は「合理性」と「共感性」とを合わせ持つことが必要だが、両者のバランスを取ることは容易ではない。だが、合理的思考は意識して心がければ身に着くと思う。しかし、共感性は努力では容易に形成できないので、この資質が不可欠である。

問３への取り組み

設問の要求

医師の倫理についてあなたの考えを述べなさい。

この課題文は、設問の冒頭にもあるように「医師の倫理について書かれたもの」なのです。そして、第６段落、第７段落には明確に「医師の倫理」ついて著者の考えが示されています。その部分を抜き出してみます。

……医師としての倫理性も、平均的人間性（道徳律と社会的拘束のバランス）に頼っているのです。これこれが医師として自分がすべきこと、これこれがすべきでないこと、一人一人の医師の胸の中には一般の社会人と同じく、自分で考えた行動の基準があり、その範囲で行動するのです。

しかし医療について、医師と患者は対等ではありません。ほとんど一方的に医師が万能なのです。けれども基本的人権の立場からは医師と患者は平等のはずです。この立場の食い違うぶんだけ、医師には倫理的義務が、そして患者には権利が主張されるべきなのです。

下線を引いたところをまとめれば、著者の考えのまとめとなります。

設問と課題文から論ずべきテーマを設定する

設問の要求　Ｘ　について、課題文では　Ｙ　と述べられている。この　Ｙ　をまとめれば、それがテーマとなると考えて下さい。ＸとＹにそれぞれの内容を当てはめてみます。

テーマ

医師の倫理（＝Ｘ）について課題文では、「医師の倫理も平均的人間性（道徳律と社会的拘束のバランス）に頼っているが、医師と患者は対等ではないので、基本的人権の立場から患者の人間的平等の権利を侵さないような職業的自覚が必要」（＝Ｙ）と述べられている。

この内容に対してあなたの考えが求められているということです。ここでもやはり著者の主張に同意の方向で考える以外にないでしょう。

医系小論文では著者の主張に同意せざるを得ないものが多くなります。だいたい、医療の場で経験を積んだ先輩たちが書いた文章が課題文になるわけですから、社会通念から見て誤っているところがなければ、批判は難しいのです。それでも、しっかりした批評眼を持って文章を読まないと、自分の文章は書けません。

論点（問い）の設定

課題文の内容に対しての考察をする際に、どのポイントについて何を考えるのか、という論点を設定し、考察を絞り込む必要があります。同意の方向でいく場合は、著者の主張の内容を具体的に掘り下げて、「こう考えたので同意できるのだ」と論証・例証する必要があります。この課題では掘り下げのポイントは２点です。

１、「医師の倫理も平均的人間性（道徳律と社会的拘束のバランス）に頼っている」は、なぜそう言えるのか？
２、「医師と患者は対等ではないので、基本的人権の立場から患者の人間的平等の権利を侵さないような職業的自覚が必要」とはどういうことか？
この二つの問いについて考えてみました。

（問 3 解答例）

医師の倫理というものも、結局は人間としての倫理を基礎にしている。医師というと、その職業的性格から立派な人格を備えたものとみなされるが、それは職業として問われることが大きいだけであって、人格は個々の人間に委ねられている。一人の人間として、社会の中での一つの役割として医師という職業を選ぶ、これが出発点であろう。己れを知り、他人を理解し、尊重することに努める。そして、公共性や環境、未来世代への責任を自覚する。こうした努力は、医師でなくとも問われることである。

問題は、医師という職業への自覚であろう。この職業は、他人の体に触れ、プライバシーに立ち入るなど、特別な権限が与えられている。また患者は常に弱い立場に置かれている。この立場の強弱を自覚し、人間的平等に常に配慮することは職業倫理の柱となろう。こうした意味で、著者の言う社会人の倫理と職業倫理が医の倫理の基本と考えられる。